

## 馬込三寸ニンジンの春播き栽培における播種日が生育に及ぼす影響

海保富士男・野口 貴・沼尻勝人・木下沙也佳  
(園芸技術科)

---

【要 約】春播き栽培の「馬込三寸」の生育には、株間の影響がなく、播種後の栽培日数が3月30日播種で120日、5月11日播種で110日程度経過して根部のつまりがよくなる。また、5寸ニンジンよりつまりがよく、抽台も少ない「馬込三寸」は春播き栽培に適する。

---

### 【目 的】

昨年、「馬込三寸」の夏播き栽培では播種日が遅くなるほど、根部の伸長はつづくが12月以降肥大せず、つまりが不十分となることがわかった。そこで、本年度は、春播き栽培で播種日が生育、とくに根部のつまりに及ぼす影響を明らかにする。

### 【方 法】

「馬込三寸」を2018年3月30日および5月11日に70cm幅ベッドに条間15cmの4条で播種し、間引いて最終的な株間9、12cmで栽培した。また、対照として5寸ニンジンの「向陽二号」を株間9cmで栽培した。成分量でN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=12:16:12 kg/10aを全量基肥として施用した。播種後90日頃から適宜収穫し、根重や根径などの生育を調査した。

### 【成果の概要】

1. 3月30日播種では、根重は播種からの栽培日数が90日から123日で増え続けた。また、根長もわずかだが増加した(図1A)。根径は上部、下部ともに116日まで徐々に増加し、上部はその後徐々に増加したのに対して下部は123日にかけて急激に増加した(図1B)。そのため、根径比も116日までは0.5程度でつまりもやや不良であったが(図2)、その後123日にかけて0.7まで急激に増加してつまりもよくなった(図1C)。しかし、株間9cmと12cmの間では、つまりなどの生育に大きな差がなかった。
2. 5月11日播種では、根重は栽培日数95日、105日、118日と増え続けた。しかし、根長はほとんど増加しなかった(図1A)。根径は、栽培期間で上部、下部ともに増え続けた(図1B)。根径比は95日で0.6とはじめからやや高く、つまりがややよかった。その後、根径比は増加して118日には0.7となり、つまりはさらによくなった(図1C)。3月30日播種と同様に株間9cmと12cmの間でつまりなどの生育に大きな差はなかった。
3. 問題となる障害の発生は、3月30日播種では裂根が多少みられたが、5月11日播種では栽培日数95日、105日、118日において収穫物の15~20%と列根が多く発生した。抽台に関しては、3月30日と5月11日のいずれの播種日でも観察されなかった(表1)。
4. 5寸ニンジンの「向陽二号」は、いずれの播種日でも根径は栽培日数とともに徐々に増加しているが、「馬込三寸」のように根径比が増加せず、つまりもよくならなかった(図1)。また、列根の発生は少なかったが、5月11日播種で多くの抽台がみられた(表1)。

### 【残された課題・成果の活用・留意点】

播種日によって裂根が多く発生したが、列根は生育初期の土壌の乾燥や低温によって発生するので、次年度は気象条件も調べて発生との関係を明らかにし、栽培管理に活かす。

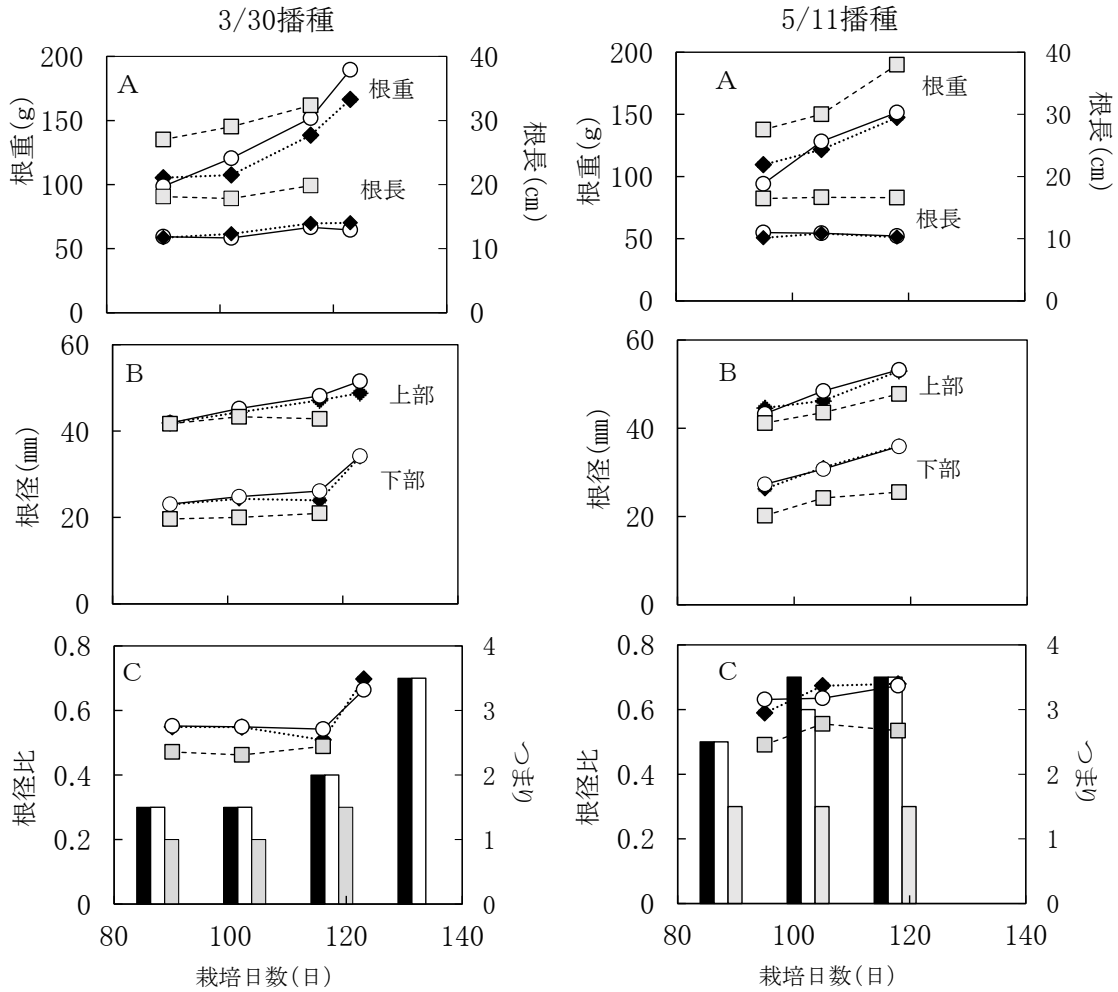


図1 栽培日数と根重，根長（A），根径（B）および根径比とつまり（C）

◆ 9cm ○ 12cm □ 向陽二号

■ 9cm □ 12cm □ 向陽二号

上部根径：肩から3cm，下部根径：先端から3cmの直径

つまり具合=1:不良，2:やや不良，3:やや良，4:良

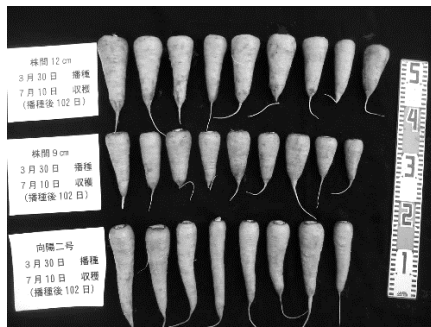


図2 ニンジンの形状

3月30日播種

栽培日数102日

上：株間12cm，つまり：1.5

中：株間9cm，つまり：1.5

下：向陽二号，つまり：1

(つまり具合は図1参照)

表1 裂根と抽台の発生状況

品種	株間 (cm)	3月30日播種		5月11日播種	
		裂根 <sup>a</sup>	抽台 <sup>b</sup>	裂根	抽台
馬込三寸	9	3.1	-	14.7	-
	12	4.2	-	19.8	-
向陽二号	9	1.7	-	5.0	+++

a) 裂根本数/収穫本数×100(%), 全収穫日の平均

b) 最終収穫日の抽台状況を観察 - : 無, ± : 微, + : 少, ++ : 中, +++ : 多